

2019年度

S B

## 小論文

3月12日(火)

人文社会科学部 (言語文化学科)

10:00～11:30

【後期日程】

### 注意事項

#### 試験開始前

- 1 監督者の指示があるまで、問題冊子、解答用紙、下書き用紙に手を触れてはいけません。
- 2 監督者の指示に従って、全部の解答用紙(1枚)に受験番号を記入しなさい。

#### 試験開始後

- 3 この問題冊子は、2ページあります。はじめに、問題冊子、解答用紙、下書き用紙(1枚(表裏))を確かめ、枚数の不足や、印刷の不鮮明なもの、ページの落丁・乱丁があった場合は、手をあげて監督者に申し出なさい。
- 4 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。(下書き用紙と間違わないよう十分注意してください。下書き用紙は採点対象となりません。)
- 5 問題は、声を出して読んではいけません。
- 6 配点は、比率(%)で表示してあります。

#### 試験終了後

- 7 問題冊子と下書き用紙は、必ず持ち帰りなさい。

次の文章を読み、あとの設問に答えなさい(配点100%)。

□

(著作権未許諾のため未公開)

# （著作権未許諾のため未公開）

三

音と言葉を一人の人間が自分のものにする最初の時のことを想像してみたらいい。芸術が生命と密接に繋がるものであるならば、ふと口をついて出る言葉にならないような言葉、ため息、さげびなどを詩とよび、音楽とよんでもさしつかえないだろう。そうした行為は、生の挙動そのものなのだから…。それは論理の糸にあや織られるまがいものではなく、深く世界につらなるものであり、未分化のふるさとの豊かな歌なのだ。

音や言葉に、そうした初源的な力を回復しなければいけない。音楽も詩もそこからしか出発しないように思う。発音するという行為の本来の意味を確かめることから始める。

〔出典〕

〔一〕 デイヴィッド・スズキ(著)・柴田譲治(訳)『生命の聖なるバランス 地球と人間の新しい絆のために』

〔二〕

武満徹『音、沈黙と測

りあえるほどに』(一部改変)

問 〔一〕と〔二〕の文章を読み、「自然」「生命」「芸術」の関係について論じなさい(八〇〇字以内)。